

御手水官儲之○中略 水女次藏人兵部大輔經世持參御手洗可爲銀器之由、女官申之不可然之由、予  
第二間次予持參御椽其路如頭弁所爲、  
供之、

〔玉海〕元曆元年十一月廿二日丁未、五節事畢略○中 大將五節裝束已下饗祿等注文略○中

一盥具 手洗二口 椽二口略○中

一祿略○中 理髮略○中 椽手洗一具

〔江家次第九月〕同殿安小行幸次第

上卿又着照慶門內座召外記問諸司具不召辨問幣物具不此間攝政洗手給諸司供之略○註

打敷一枚近代無 手洗一口 椽二口或三口

〔江家次第十七〕御元服

南殿異坤角壇上各立白木案一脚各高一尺五寸、長二尺、弘一尺三寸、其上置手洗椽各一具、

○按ズルニ、天皇御元服及ヒ皇太子御元服等ノ時、手洗ヲ用キルコトハ、匣條ニモ載セタレバ  
參看スベシ、

〔空穂物語 菊の宴一〕かくてきさいの宮賀正月廿七日にいでくる、おとねになんつかまつり給ける、まうけられたるもの、みづしむよろひ略○中 御てうづのてうど、まろがねのつき、御たらひ、ちんをまろにけづりたるぬきす、まろがねのはんごう、ちんのけうそく、まろがねのすきはこ、からあやの御ひやうぶ、みきちやうのほね、すはうしたんなり、

〔海人藻芥〕手洗水ヲ置中居邊椽、水瓶ヲ入手洗中置之、提ヲ不入置之事也、

〔江家次第九月〕行幸神祇官被立伊勢幣儀

次供御手水略○註 打敷略○中 臺、貫、篋等如恒、

〔兵範記〕仁安三年十月廿一日己酉、未明參河原頓宮略○中 藏人左衛門權佐經房持參御手水貫、篋、重器